

生 き る 力 の 育 成

生徒一人一人を生かす学習指導を通して

I 研究の内容

1 授業実践

(1) 一人一実践の授業実践を行う。

ア 授業実践では、各教科共通の視点で授業を行い、その効果について検証する。

○共通の視点

- ・少人数集団における、授業の工夫（授業形態・授業プリント等）
- ・表現力を向上させるための工夫（伝え合い活動・発表活動等）

イ 全体での授業研究（2学期）を行い、検証を行う。

2 研修・学習会について

(1) 職員へのアンケートを実施し、学びたい内容について講師を招聘したり、先進校の視察等も含めて学習する機会を設定する。

II 成果と課題

1 成果

(1) 「授業実践」について

- ・一人一実践の授業を行うことにより、先生方の研究も深められたと思う。
- ・教諭各自が、大和中の生徒一人ひとりを生かす授業が実践できたこと。
- ・生徒それぞれに各授業内で目が向けられており、一人ひとりの力を伸ばそうと、全教師が同一の観点で指導したことが、とても良かったと思う。

(2) 「研修・学習会（理論研究）」について

- ・新学習指導要領の中で強調されている、コミュニケーション能力や表現力の育成について、多少なりとも分かった。
- ・SCの学習会も行い、生徒理解に役立てることができた。

(3) まとめとして

中学校で、一教科一人という指導体制の中、横断的な研究を進めることは難しい。しかし、生徒の実態を把握し、その中から課題を絞り、各教科でできる課題解決への迫り方を考えることで、教科の壁を越えた研究を行うことができた。

今年度は、生徒の課題として、「表現力の育成」を共通課題として取り組み、特に表現力を育成するための授業形態、授業の中に発表や伝え合う場を設定する…等、教科の特性も生かしながら指導案に盛り込み、実践することができた。

また、理論研究として、指導主事を招聘しての学習会を2回（1学期「伝え合う力について」保坂 伸指導主事・2学期研究授業後「よい授業について」古屋 修二指導主事）、SCによる生徒理解のための学習会（夏季休業中「話をきくということー「傾聴」ーとは西館奈津子SC）を実施し、「表現力の育成」や「わかりやすい授業」・「生徒理解」等についての理論研究にも取り組んだ。その結果、授業や学校生活の中で研究の成果を生かすことができた。

2 課題

（1）「授業実践」について

- ・一人一実践の授業は有効であるが、授業実施後、参観した先生方の意見や感想を授業者に伝わるような工夫が必要だと思った。（参観の視点などが記入してある記録用紙等の作成）また、短時間でもいいので、研究会を行うとより深めることができると思う。
- ・全体的にまだ、表現する力が足りない。
- ・4月のNRTを3年間比較していくと、学力の伸びと同時に、教師の指導を振り返る目安となると思うので4月と3月にアンケートをとるなど…すると、取り組みの成果がわかりやすいと思う。

（2）「研修・学習会（理論研究）」について

- ・新教育課程の完全実施を迎えるので、確認すべき点や共通理解をしておきたい点などについての学習会をしても良かった。

（3）まとめとして

授業実践については、やりっ放しではなく、少ない時間でも実施後の研究やまとめができるようにすれば、より効果的な実践となると思う。また、そのための「授業観察の視点」等の資料の作成などを、行うことも必要だと思った。来年度、校内研の計画を立てる際に、「実践→まとめ」というサイクルが授業実践において構築できるようにしていきたい。また、生徒の変容が分かるような、アンケートや調査の実施も必要であると思う。

学習会については、理論研究だけでなく、具体的実践例等の紹介など、即戦力となるような内容の学習会も、今後考えていきたい。

（研究主任 筒井 弘）